

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000608	事業の開始年月日	平成29年11月30日
		指定年月日	平成29年11月29日
法人名	株式会社コムロード		
事業所名	もえぎケアセンター平戸		
所在地	(〒244-0803) 神奈川県横浜市戸塚区平戸町1029-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※ コロナ禍の中、大きなイベントなどの実施が難しい中、お誕生会やクリスマス会、お正月など恒例のイベントをスタッフ間の中で話し合い入居者の楽しみを増やす努力をしている。 ※食事は各利用者の希望を伺い添えるよう普段はなかなか口にできないようなお寿司などの提供と共に、スタッフ手作り料理やケーキも欠かさないように努めている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年3月20日	評価機関 評価決定日	令和3年3月29日

### 訪問調査日

#### 【事業所の優れている点】

◇新型コロナウイルス対応の徹底

新型コロナウイルスへの感染防止対策として、家族を含め外部からは、事業所内への立ち入りを禁止しているが、利用者の状況に変化があれば、家族には、電話できめ細かく伝えて安心してもらっている。

また、職員全員で繰り返し申し合わせて、職員自身が感染しないように日々の生活に気を付けている。

#### 【事業所が工夫している点】

◇利用者の好みを反映した食事の提供

入居時に利用者の食に関する好みを把握し、また、日常の食事を通じて嗜好を把握し、行事食、赤飯、ちらし寿司や、から揚げ等を用意して楽しんでもらっている。また、オープンキッチンのため調理の音や匂いを利用者が楽しんでいる。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	もえぎケアセンター平戸
ユニット名	楓・桔梗

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			ごも
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの入職時、理念の説明を行っている。また、理念の元にスタッフが同じ方向へ向かうよう常に声を掛け支援している。	・基本理念を「利用者と一体感ある介護サービス」とし、「社会貢献、本人の尊厳と家族の意思の尊重、ゆとりと夢、価値観・知識・技法のレベルアップ、地域密着」を事業所指針のキーワードとして、全職員がケアを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、地域とのつながりは途絶えている状態。	・開設以来、書道や沖縄民謡等のボランティアも受け入れ、事業所の秋祭りには、地域住民の招待等を通じて、地域と交流していたが、現在はコロナ対応で中止している。 ・近隣住民との挨拶や軽い立ち話等の近所付き合いは継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、地域とのつながりは途絶えている状態。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各管理者より運営会議の中で知り得た情報を共有し、また検討している。新しい情報をスタッフも含め、現場での実施事例を検討共有している。	・町内会長、地域ケアプラザ職員、家族代表をメンバーとし、年6回開催している。 ・事業所の運営状況を説明し、メンバーからの意見、情報提供等を得て運営に反映している。		
3	10					
5	49	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報提供に関して、常に発信をしているがコロナ禍の中難しいところがある。	・介護保険の更新で区の担当職員が来所する等、密に連携している。 ・コロナ禍等の感染情報は、メールで得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回のミーティングにおいて、介護保険上のサービスに関し、身体拘束にあたる行為について認識を深め、職員同士に於いてもお互いの声かけをし注意を喚起している。	・月1回のスタッフ会議で、身体拘束をしないケアについて職員に注意を促したり「身体拘束0への手引き」を用いて研修を行っている。 ・契約書に、身体拘束の禁止事例を挙げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の観点からスタッフの言葉使いやしぐさに関してはスタッフ同士でも注意を喚起し合う環境を作っている。また、虐待に関する報道などがあつた際もお互いに見直す機会を作っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の日常の支援に於いて自立を促すような支援をする。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のための家族面談時、必要書類を用い、質問の有無を頻繁に尋ねるなどして、十分に理解していただいている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会ができない今、電話での会話やタブレットでの会話でご本人の御様子を知って頂く。また、体調の変化に応じてご家族にご連絡し施設の対応をご理解いただく。	・コロナ対応で、家族の面会は禁止しており、電話等で利用者の様子についての情報を提供し、その際に意見を把握するようにしている。	毎月定期的に、利用者の様子を書面や写真で家族に報告し、意見や要望を返信で把握する等の工夫が期待されます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	些細な事例でも管理者へ報告・相談し解決の方向を導き出している。	・管理者は、日常の会話や引継ぎ、月1回のスタッフ会議等を通じて職員の意見を把握している。 ・また、定期的に職員との面談の機会を設け、意見や要望の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍のため、頻回な面談などは出来ていないが、適応適時に報設しスタッフからの要望や様子の確認をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の確保は難しい状況ではあるが、内部の研修を実施し、スタッフ個々の力量を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同事業所内の施設とは、情報共有を行い、業務の見直しやサービスの向上を図るよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居からの一定期間は、日々の様子を詳細に観察し、記録に残し御本人にも都度希望や不安などの有無に耳を傾け信頼関係の構築と安心して生活を送ることができる環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時や、ご入居後の一定期間家族からご入居者本人への思いや不安に対し丁寧に傾聴し、要望にも可能な限り対応し安心して任せて頂けるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前やご入居後の面談時、ご入居に繋がった案件やご入居後の不安面などを丁寧に傾聴し、必要性の高い支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の了承の上、食器拭きや洗濯物畳みなどの軽作業を共有している。また、スタッフがご入居者様から学ぶことが多くあるという意識を常に持ち共有することで日々の会話の大切さを知る。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状況や要望について、ご家族とは極力密に連絡を取り双方の要望を統合した支援を構築するよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や知人の連絡には迅速に対応し、電話などのツールにて会話が可能な環境を作っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応で友人、知人の面会を禁止しているが、利用者の携帯電話等で連絡できる体制をとっている。</li> <li>・今年の元旦に「利用者直筆のメッセージ入り年賀状」の発送を支援した。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の性格や特性を把握し、ご利用者同士の良好な関係が築けるよう食席や居室の配置を考慮し、レクリエーション時は楽しく参加できるよう配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も、相談や支援が可能であることを周知しフォローアップしていく方針である。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者との会話を大切にし、適時要望に対してスタッフ間で共有をしミーティング時などで発信し検討を行っている。	・日常の会話をできるだけ多くし、表情・言動も含めて、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時やご家族からの連絡時などに生活環境についての情報を頂く。また、ご入居前の施設、病院からの情報も支援のエビデンスの一因とする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々の現状の生活パターンや、心身、身体、認知症の状態をスタッフがアセスメントし、それを共有できる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常のご利用者の様子やご家族、後見人からの要望や提言に対しスタッフ間で共有、検討し要望に柔軟に対応が現実的な介護計画を作成している。	・毎月のケアカンファレンスで、利用者の状況のモニタリング結果について話し合い、 ・介護計画は、通常6か月で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には細かな気づきも記入する。また、スタッフは出勤していない際の記録にも確認を怠らない。そこからの気づきや提案をミーティングで検討し介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームならではの家庭的な雰囲気や、季節感、催事を大事にしご利用者それぞれの楽しみを感じてもらえる支援を行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居時やその後のご利用者に関わる地域資源の把握に努めている。コロナ禍が落ち着いた際は地域への参加を行い、ご利用者の得意なことを子供たちと楽しめる環境を取り戻す。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者のご家族の希望に基づき、訪問診療や受診先を選択し、かかりつけ医との連携が、常に密に取れるよう努めている。	・協力医療機関の主治医（内科）、歯科医が月2回訪問診療を行い、訪問看護師が毎週健康確認に来所している。 ・診療科によっては従来のかかりつけ医を受診し、家族が付き添っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフはご利用者の体調の変化に留意し隔週の訪問時にs時を報告、相談を行い医療との連携を行う。急変時には24時間対応の訪問看護師と連絡して指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師、看護師などとも連携を図り、入院後も情報の共有を行い病状の把握対応に努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意向を確認しご入居後ご家族、後見人間で看取り対応について指針を元に十分な説明を行いました承を頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時に「重度化対応に関する指針」に基づき、本人と家族に説明、同意書にサインをもらっている。</li> <li>・看取り介護に入る場合は、医師と、事業所管理者が、家族の意向を汲んで、今後の進め方を話し合っ決めて決めている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故に対するマニュアル作成し、医療機関への迅速な連携を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の指導や協力を得て防災の実施。スプリンクラー、火災報知器の定期点検も実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は、夜間想定を含めて年2回、1階の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っている。</li> <li>・災害用の備蓄品は、3日分の飲料水に食料品と簡易トイレ、コンロなどを備えてリスト化し管理している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や尊厳を尊重し対応している。スタッフには守秘義務についてミーティング等で周知を図っている。	・管理者は、職員の利用者への挨拶、声掛け、会話などが適正に行われているかを注目している。 ・これらが、利用者の信頼を得る上で大切だと、職員に話している ・研修は接遇マニュアルに基づき行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や態度、表情を通じ(2)てご本人の意向を知り、可能な限り応じる対応をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者個々の状態を日々把握し、希望がある場合はその都度対応するようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある服装選びや、ご本人の希望に沿って理美容にて整容を行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	味や色どりなどに配慮しながら、個々の好みに合わせられるような食事の提供を行っている。また、食後の食器拭きや片付けなどにも参加して頂いている。	・利用者の好みは、個々への聞き取りと残食から把握している。 ・行事食は、利用者の好みを反映し、赤飯、ちらし寿司、茶碗蒸し、唐揚げなどを提供している。時々出すマクドナルドのハンバーグも大好評である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが食事の際、見守りや介助を行い摂取量の把握や状態の変化に合わせて対応を行っている。水分量が不足気味の際は味に変化をつけるなどの対応をし、水分量の確保を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔ケアを実施しており、口腔内の異常をの早期に発見して、訪問歯科との連携を図っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、都度お声掛けや、誘導によりトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄記録から、利用者の排泄パターンを把握し、定時の声かけ誘導により、トイレでの排泄を支援している。</li> <li>・定期的な排泄支援により、失禁が少なくなり、リハビリパンツから布パンツに移行できた改善例がある。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分補給、体操、運動を実施し便秘の予防に取り組んでいる。訪問看護と相談の元対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態や気分配慮し、入浴を希望されない場合は日を変えて実施している。また、入浴剤にも気分よく入浴できるような香りや色にも配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴日は原則週2日とし、利用者の希望に合わせた時間で入浴できるよう努めている。</li> <li>・その日の利用者のバイタルに合わせて、浴槽内の時間を調整している。職員と会話をしながら、くつろいで入浴を楽しんでいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合ったペースで休息を取れるよう努めている。リネンの清潔にも配慮し定期的に洗濯している。室温の調整も都度行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬に関して、変更がある際は申し送り等で周知を行っている。担当薬局との連携を取り、スタッフ間での統一に努めている。また、薬情は常に見られる状態にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事的なことには積極的に参加して貰っている。季節感のある掲示物の作成を共にして貰う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温、体調に合わせ階下の庭へ行き気分転換を図っている。その際、季節の歌を一緒に歌う等で、季節感を味わって貰っている。	・コロナ禍の現在は外出は無理で、庭での外気浴に留まっている。以前は事業所周辺の散歩や買い物にも行っていた。 ・散歩や外出の写真は、リビングや居室に掲示している。	気分転換や健康維持を目的に、外気浴や菜園、花壇の手入れを、今後も継続することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が必要とされる物品はご家族、後見人と連絡を取り、購入していただく。もしくは施設にて購入し清算している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望やご家族の要望により、電話で対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の視線での室温、音量、光量の調整を行っている。フロアには季節が感じられるような飾り付けの工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビング、トイレ、廊下などの清掃は職員が交代で毎日行っている。</li> <li>・リビングの温度は26℃、湿度は50%以上を原則としているが、その日の利用者の体感で調節している。</li> <li>・職員手作りのカレンダーを掲示し季節感を味合えるようにしている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間を常に空け、ご利用者同士の行き来が自由にできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が使用されていた家具や小物を持参していただき使い慣れた物品で安心できる生活を送って頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所でエアコン、クローゼットを完備し、利用者が馴染みのタンスなどを持ち込み、室内には、家族の写真、カレンダー等を掲示している。</li> <li>・居室の整理・整頓・清掃は職員が行っている。利用者にも可能な限り手伝ってもらっている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりの設置をしている。また、夜間でも安心して歩行が出来る程度の照明を付けている。各居室のドアに飾りなどをかけ分けやすいような工夫をしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター平戸

作成日 令和 3年 1月 30日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画に沿ったサービスに関して。	短期目標に基づき目標を達成するために、出来るサービスは、何かを考える。	介護計画に沿ったサービスとは何かをスタッフが理解する。目標に沿ったサービスを見、個人記録に記入することを定着させる。	3か月
2	1	理念をスタッフが理解しているか。	入居者との一体感のあるサービスを構築する努力をする。理念を今一度スタッフが確認し、その方法を身に着ける。	ミーティングで、課題を出し目標を定め、理念に沿ったサービスの実践を図る。	6か月
3	10				
4	49				
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。